

# カードの不正使用にご注意を！



ディワリ祭で賑わう  
地元商店街

国立研究開発法人 科学技術振興機構  
インド代表 西川裕治

## 突然カードが不正使用

インドでは最大の祭日のひとつであるディワリ祭(10月19日)の夜9時頃のことだった。ベッドに横になって読書をしていたら、スマホのSMS(ショートメッセージサービス)着信音がピンポン、ピンポンと30秒おきくらいに何度も鳴った。急ぐ話ではないと思い無視して読書を続けていたら、今度は電話が。「今、あなたの銀行デビットカードが不正に使用されている可能性があるの、カード使用を停止したい」との緊急の知らせ。さらには「カードが停止されているかを確認するために、近くの銀行ATMに行ってみて実際に操作して確認してほしい」と。

デビットカードは使用するとすぐにSMSで使用金額の確認メッセージが入る。SMSを開いてみると、確かに7回くらいの連続使用の記録が残っており、それも1回の引出額は全て1万ルピー(約2万円)以下の少額になっていた。一度に多額の現金を引き出すと目立つので、小口に分割して不正引き出しをしたことは明らかだ。

これは一大事である。「大気汚染が最大となるディワリ祭の深夜に、なんで外出せねばならぬのか」と思いつつも、徒歩で近くのATMに行ってみて確認したところ、確かにカードは無効になっていた。

## 調査が終わるのは「50日後」

さて、銀行に電話して対応策を聞いたところ、すぐに被害届のフォームをメールで送るので、記入して銀行窓口へ提出してくれとのこと。念のため銀行の顧客サービス窓口へ電話したら「この番

号は現在使用されていません」との音声メッセージで愕然となるが、とにかくフォームが送られてきたので、被害届を作成して返信。

翌朝、私の秘書に銀行に電話してもらった(インド英語はとにかく速くて聞きづらいので、緊急時には信頼できる現地人に頼む必要がある)。何度かたらい回しされたが、担当者らしき人物につながり、対処方法を聞いたところ、最寄りの警察署に被害届を提出し、そのコピーに警察の受領サインを取って銀行窓口へ提出せよとのこと。

そこで最寄りの警察署を探して行くと、「被害届の用紙がないので、被害届を書いて持ってこい」と面倒なことを言う。事務所に戻り、被害届を作成して、サインし、パスポートコピーを付けて提出したところ、内容をほとんど読みもせず、それにサインして返却された。ということは、警察は確かに受理はしてくれたが、始めから捜査などする気は全くないらしい。

警察から銀行へ直行したが、その日は担当者は休暇で不在。翌々日、担当者が出勤したので「不正使用された金は戻るのか」と聞いたら、「社内調査が終わると保険で戻る」との頼もしい答え。「調査はいつ終わるのか」と聞いたところ「50日後」。卒倒しそうになったが、どうにもならない。50日後になれば被害届を出したことを忘れていても考えているのかも。

## 危機管理で被害は最小

気を取り直して、他社の日本人駐在員に聞いたところ、この種の不正使用は頻繁に起きているようで、聞いた相手もその知人も被害に遭っている